

2019年5月度 中部品質工学研究会 議事録

1. 開催日時

2019年5月11日（土）10:00～17:00

2. 開催場所

ITEQ様

3. 参加者<敬称略>出：出席、欠：欠席、書：書記

大見	出	牧野	出	横尾	出	山口	出	杉浦	欠	三浦	出	城越	出	中山	出
合田	出	佐藤	出	伊藤	出	舟山	欠	石上	出	岡田	出	出島	出	福田	書
李	出	河合	欠	奥村	出	水田	出	小西	出	小峰	欠	宮崎	出	山中	出
						雲丹亀	休	林(千)	休	則尾	休	山磨	休	庄内	休

4. 研究内容

1) 輪講【昨年の椿先生講演会の内容の解説（福田）】

昨年10月の椿先生の講演資料の解説。学術としての統計学、今後の学術体系のあり方、の2つを解説した

2) 割引係数法(大見)

割引係数法の計算方法と係数の解釈について解説。サンプルデータを使用し、他手法と比較して精度がどの程度変わるのか確認した。

3) RQES2019向けAPRT法の発表内容の確認(出島)

APRT法とMT法における項目選択実施例の結果を報告した。

結論として項目選択における効果の出やすいと考えられる方法を報告した。

4) なんでも相談会 重回帰分析と正規分布(石上)

重回帰分析を行う際の前提条件の疑問点を相談。説明変数の確認すべき事項について意見交換し、分析上の注意点を確認した。

5) 分科会の進捗状況

①APRT法+AI：リーダー出島氏 大見、舟山、福田

今後の方針の草案について相談。APRT法の課題事項の再確認、MTとAIのベンチマーク方法、MTとAIの組合せ方について相談した。

②機能性評価：リーダー合田氏 岡田、横尾、伊藤、李、三浦、水田、大木、石上、中山

作成したテンプレートに当て嵌めた1つの事例をレビュー。目的機能の導出を完了し、そこからムリに基本機能導出に進もうとして躓いていることを確認。

目的機能から評価・実験に進んで良い場合があることをフローチャート等で示すことを検討する。次回、各自の事例で検証する。

③L18直交表研究：リーダー山口氏 佐藤

L18直交表（主に主効果を評価）がL27直交表（主効果と交互作用評価）より優れている（外挿に強い）ことを検証したい。

1. RCカーのシミュレーション（特性値：ラップライム、ノイズ：タイヤグリップ）を事例として比較・検証を行ったところL27、L18実験ともにほぼ同じ結果を得た。
⇒使用する直交表による差異は小さい
2. 「電気・電子系の技術開発」に掲載の温度調節器のON-OFFの最適設計（L36、機能窓で評価）の再現実験を行った。制御因子が6個と少ないのでL27、L18実験を行い実験結果の差異を検証していく。
3. 「品質を獲得する技術」、日科技連、宮川雅巳著に基づき、L18の3水準の交互作用を検証したところ、2、4、5列間で完全行楽の発生が確認された。
⇒6因子なら3列以降に割り付けると良い。

④CS-T法：リーダー牧野氏 城越、奥村、河合、小西、杉浦

研究発表大会の修正内容を共有化した。6月の研究会で紹介することとした。

5. 事務局連絡

- ・なんでも相談会、相談テーマ募集
- ・本年度の合宿に関する連絡
⇒椿先生、田口先生、鶴田先生、細川先生をゲストに呼ぶことを計画
⇒各先生の講演テーマ候補について
- ・品質工学研究発表会
⇒6月27日～28日開催（壇上発表：出島氏、牧野氏）

6. 次回案内

日時：2019年6月8日（土） 10：00－17：00

場所：ITEQ様

以上